

絵筆に託す愛と祈り
生誕100年 ITO Kiyonaga : A Retrospective
伊藤清永展



《室内》1948年 兵庫県立美術館蔵

2011年(平成23)12月10日(土) ~ 2012年(平成24)1月22日(日)

休館日：月曜日[ただし、1月9日(月・祝)は開館し、翌10日(火)休館]、年末年始[12月31日(土)、1月1日(日・祝)、1月2日(月・振)]

開館時間：午前10時 - 午後6時(金・土曜日は夜間開館午後8時まで)、入場は閉館の30分前まで

会場

兵庫県立美術館 3階 企画展示室

概要

伊藤清永(いとう・きよなが 1911~2001)は、兵庫県出石町(現豊岡市)に生まれ、文化勲章を受章した洋画家です。当館では、本年が画家の生誕100年であることを記念して大規模な回顧展を開催します。

正統的な写実の表現を追及し続けた作者の裸婦像は、明るく芳醇な色彩が横溢し、見るわたしたちに深いやすらぎを与えてくれることでしょう。

また、禅寺に生まれ、幼少より僧侶への道を期待されていた作者の制作は、常に画家としての使命感と他者への報恩の思いに貫かれています。そのことを最もよく示すのが愛知学院大学百周年記念講堂壁画《釈尊伝四部作》でしょう。本展覧会では、縦約4メートル、横約3メートルの大画面4枚から成る本作品をはじめ、初期から晩年にいたる油彩画と下絵・デッサン約70点を展示します。

主催等

- 主 催：兵庫県立美術館、神戸新聞社、産経新聞社
後 援：財団法人 伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、
関西テレビ放送、サンケイスポーツ、夕刊フジ、サンケイリビング新聞社、
サンテレビジョン、ラジオ大阪、ラジオ関西、Kiss FM KOBE
協 賛：(財)みなと銀行文化振興財団
協 力：ホテルオークラ神戸
特別協力：愛知学院大学

観覧料

一般 1,200 (1,000) 円 / 大学生 900 (700) 円 / 高校生・65 歳以上 600 (500) 円 /
中学生以下無料

()内は前売および 20 名以上の団体割引料金

高校生・65 歳以上は前売販売しません。

障害のある方とその介護の方 1 名は各当日料金の半額(65 歳以上を除く)

割引を受けられる方は、証明できるものをお持ちのうえ、会期中美術館窓口で入場券を
お買い求めください。

コレクション展の観覧には別途観覧料が必要です。(本展とあわせて観覧される場合は割引
あり)

前売券は 12 月 9 日 (金) まで販売します。会期中は前売券を販売しません。

前売券販売場所：チケットぴあ(P コード：764-904)、ローソンチケット(L コード：57939)
ほか京阪神の主要プレイガイド

関連事業

(1) 記念対談

「伊藤清永の芸術を語る」中山忠彦 (洋画家・日本芸術院会員) × 蓑豊 (当館館長)
平成 23 年 12 月 18 日 (日) 午後 2 時より、ミュージアム・ホールにて
共催：兵庫県立美術館 友の会
聴講無料 (先着順、定員 240 名)

(2) 学芸員による解説会

平成 23 年 12 月 10 日 (土)、24 日 (土)、平成 24 年 1 月 7 日 (土)、21 日 (土)
いずれも午後 4 時より約 45 分間、レクチャールームにて
聴講無料 (先着順、定員 80 名)

(3) こどものイベント「モデルになろう！ + モデルを描こう！」

平成 23 年 12 月 17 日 (土) 午前 10 時 30 分 ~ 午後 3 時 30 分 アトリエ 2 にて
小学校 3 年 ~ 中学校 3 年 30 名 要申込

(4) ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日、午前 11 時から約 15 分、レクチャールームにて

お問い合わせ先

兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1番1号

【企画内容に関すること】担当学芸員 西田桐子 / 飯尾由貴子

tel: 078-262-0909 (学芸直通) fax: 078-262-0913

e-mail :nishida@artm.pref.hyogo.jp (西田)

【取材・写真提供に関すること】営業・広報グループ

tel: 078-262-0905 (営業・広報直通) fax: 078-262-0903

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

展示構成・内容

油彩画約 60 点、水彩・下絵 約 10 点を、次のパートに分けて展示

初期作品

幼少より僧侶となる訓練を受けた伊藤清永でしたが、中学校在学中に油絵を描きはじめ、ついに画家を志すようになります。中学校卒業後は周囲の反対を押し切って上京、本郷絵画研究所を経て東京美術学校西洋画科に入学しました。2 度にわたり大病を経験し、苦学しながら在学中より、白日会やさまざまな公募展に都会的でモダンな雰囲気のある作品を送りました。



《太鼓櫓》1926 年 伊藤清永美術館蔵

《磯人》から終戦まで

三重県志摩安乗に 3 ヶ月滞在して描いた《磯人》が、1936 年（昭和 11 年）文部省主催美術展覧会鑑査展で選奨となり、伊藤清永は若手新進画家としての地位を確立します。2 度にわたり応召しながらも、総面積約 40 坪もある母校の愛知中学校の講堂壁画を完成させ、さまざまな展覧会にも出品を続けます。また、この章では新たにみつかった珍しい作品 4 点を展示します。



《磯人》1936 年 伊藤清永美術館蔵

戦後の再出発

復員後、シベリア抑留中の兄にかわって、しばらく郷里で寺の住職をつとめていましたが、日展が再開されると聞いて再び絵筆を握ります。細密かつ着実な筆致で、愛情込めて対象を描いた《母の肖像》は、見えない何かを描くことの大切さを画家に教えました。東京に戻って描いた《室内》は、妻と娘を描いたものですが、緑の背景に映える赤い洋服の色と、二人のなごやかな期待まじりの視線が印象的です。本格的に裸婦にとりくみはじめるのもこの頃で、清澄な裸婦像の佳品が生まれました。



《母の肖像》1946 年 伊藤清永美術館蔵

渡欧と新たな挑戦

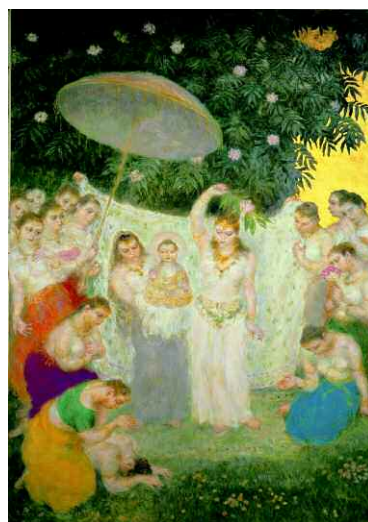
1962（昭和37）年、51歳にして渡欧を果たした伊藤清永は、モノトーン的な抑えた色調で空間と裸婦の量感を表現することに成功します。帰国後もしばらくこの路線で制作を続けますが、風土の違いからか、思ったような効果が得られず、日本画に転向したいと、ひそかに悩んだこともありました。



《オランダの裸婦》1962年 伊藤清永美術館蔵

《釈尊伝四部作》完成まで

ついに、モノトーンの諧調で描くことをあきらめた伊藤清永は、色彩を生かして、日本の裸婦の肌の美しさを描こうと決心します。この章では、そうした模索の末にたどりついた1970年代後半から1980年代はじめ頃までの円熟期の作品を展示します。また、愛知学院大学百周年記念講堂の《釈尊伝四部作》は、禅寺に生まれ僧侶の訓練を受けた伊藤清永が、画家としての使命感と報恩の思いを胸に約7年をかけて制作したもので、この度、設置後はじめて大学から搬出され展示されます。



《釈尊伝四部作「降誕」》1984年 愛知学院大学蔵

《釈尊伝四部作》完成後から晩年

精魂傾けた《釈尊伝四部作》完成後も、旺盛な制作欲で個展開催、展覧会出品を続けた伊藤清永ですが、90年代には片方の視力を弱めてしまいます。しかし、色彩豊かな筆触をそれまでよりいっそう自在に操ることによって、画面は融通無碍の極みに達しました。



《鏡に立つ》2001年 兵庫県立美術館蔵

絵筆に託す愛と祈り

生誕100年 ITO Kiyonaga : A Retrospective

伊藤清永展

営業・広報グループ 宛

FAX (078) 262-0903

ご希望の写真の番号に をつけてください。後日お送りいたします。また、読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで)もご用意しております。ご希望の場合は、ご請求ください。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・その他(クレジット等)
1	《室内》1948年 兵庫県立美術館蔵
2	《太鼓櫓》1926年 伊藤清永美術館蔵
3	《磯人》1936年 伊藤清永美術館蔵
4	《母の肖像》1946年 伊藤清永美術館蔵
5	《オランダの裸婦》1962年 伊藤清永美術館蔵
6	《釈尊伝四部作「降誕」》1984年 愛知学院大学蔵
7	《鏡に立つ》2001年 兵庫県立美術館蔵

上記図版を媒体掲載されるときには、上記作品名、制作年等を必ず記載してください。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日			
写真到着日希望			
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組	名	分希望

写真データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。